

## 凡 例

1. この年報は、本県における各種保健統計を平成13年(1月~12月)暦年で表し集録したものである。

ただし、地域保健・老人保健事業報告については、平成12年度(12.4~13.3)である。

2. この年報の主要な統計表については、できるかぎり全国値を取り入れるよう努めた。

3. 統計表中の符号の用法は次のとおりである。

- 「 - 」 該当数字がない場合
- 「 ... 」 計数不明の場合
- 「 ・ 」 統計項目のあり得ない場合
- 「 0.0 」 比率が微少(0.05未満)の場合
- 「 」 減の場合

4. 用語の説明

- 自然増加.....出生数から死亡数を減じたもの
- 乳児死亡.....生後1年未満の死亡
- 新生児死亡.....生後4週未満の死亡
- 早期新生児死亡.....生後1週未満の死亡
- 死産.....妊娠満12週以後の死児の出産
- 後期死産.....妊娠満22週以後の死児の出産
- 周産期死亡.....後期死産と早期新生児死亡をあわせたもの

5. 統計表中の各比率の算出は、次のとおりである。

(1) 粗比率

$$\text{出生率} = \frac{\text{年間出生数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$$

$$\text{死亡率} = \frac{\text{年間死亡数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$$

$$\text{自然増加率} = \frac{\text{自然増加数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$$

$$\text{乳児死亡率} = \frac{\text{年間乳児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$\text{新生児死亡率} = \frac{\text{年間新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$\text{死産率} = \frac{\text{年間死産数}}{\text{年間出産数}^{(1)}} \times 1,000$$

(1) 出産数とは、出生数と死産数の合計を言う。

$$\text{自然死産率} = \frac{\text{年間自然死産数}}{\text{年間出産数}} \times 1,000$$

$$\text{人工死産率} = \frac{\text{年間人口死産数}}{\text{年間出産数}} \times 1,000$$

$$\text{周産期死亡率} = \frac{\text{年間周産期死亡数}}{\text{年間出生数} + \text{年間妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$$

妊娠満22週以後の死産率（総数・自然・人工）

$$= \frac{\text{年間妊娠満22週以後の死産数（総数・自然・人工）}}{\text{年間出生数} + \text{年間妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$$

$$\text{早期新生児死亡率} = \frac{\text{年間早期新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$\text{婚姻率} = \frac{\text{年間婚姻届出件数}}{10月1日現在日本人人口} \times 1,000$$

$$\text{離婚率} = \frac{\text{年間離婚届出件数}}{10月1日現在日本人人口} \times 1,000$$

(2) 出生

母の年齢（年齢階級）別出生率

$$= \frac{\text{ある年齢（年齢階級）の母が1年間に生んだ子の数}}{10月1日現在における日本人女子のある年齢（年齢階級）の人口} \times 1,000$$

$$\text{合計特殊出生率（粗再生産率）} = \left\{ \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女子人口}} \right\} 15歳から49歳までの合計$$

注) 女子の年齢別出生率の合計で、1人の女子がその年次の年齢別出生率で一生の間に生む平均子供数をあらわす。

$$\text{出生性比} = \frac{\text{年間男子出生数}}{\text{年間女子出生数}} \times 100$$

$$\text{月間出生率（年換算率）} = \frac{\text{月間出生数}}{\text{月初人口} \times \text{年換算係数}} \times 1,000$$

$$\text{注) 年換算係数} = \frac{\text{月間日数（30,31,28又は29）}}{\text{年間日数（365又は366）}}$$

すなわち、1年の長さを1とした場合の各月の長さをいう。

(3) 死亡

$$\text{死亡性比} = \frac{\text{年間男子死亡数}}{\text{年間女子死亡数}} \times 100$$

年齢（年齢階級）別死亡率（総数・男・女）

$$= \frac{\text{年間のある年齢（年齢階級）の死亡数（総数・男・女）}}{10月1日現在における日本人（総数・男・女）のある年齢（年齢階級）の人口} \times 1,000$$

$$\text{年齢（年齢階級）別死亡率性比} = \frac{\text{ある年齢（年齢階級）の男子の死亡率}}{\text{ある年齢（年齢階級）の女子の死亡率}} \times 100$$

$$\text{月間死亡率（年換算率）} = \frac{\text{月間死亡数}}{\text{月初人口} \times \text{年換算係数}} \times 1,000$$

$$\text{死因別死亡率（年間）} = \frac{\text{年間の死因別死亡数}}{10月1日現在日本人人口} \times 1,000$$

年齢調整死亡率

$$= \frac{\{ \text{観察集団の年齢} \times \text{歳（年齢階級）の死亡率} \times \text{基準人口集団のその年齢} \times \text{歳（年齢階級）の人口} \} \text{の各年齢（年齢階級）についての総和}}{\text{基準人口集団の総数}} \times \frac{1,000}{(100,000)}$$

(4) 乳児死亡

$$\text{乳児死亡性比} = \frac{\text{年間の乳児死亡の男子死亡数}}{\text{年間の乳児死亡の女子死亡数}} \times 100$$

$$\text{死因別乳児死亡率} = \frac{\text{年間の死因別乳児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 100,000$$

$$\text{死因別新生児死亡率} = \frac{\text{年間の死因別新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 100,000$$

(5) 死産

$$\text{死産性比} = \frac{\text{年間の男子死産数}}{\text{年間の女子死産数}} \times 100$$

$$\text{月間死産率（総数・自然・人工）} = \frac{\text{月間死産数（総数・自然・人工）}}{\text{月間出生数} + \text{月間死産数}} \times 1,000$$

月間妊娠満22週以後の死産率（総数・自然・人工）

$$= \frac{\text{月間妊娠満22週以後の死産数（総数・自然・人工）}}{\text{月間出生数} + \text{月間妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$$

母の年齢（年齢階級）別妊娠満22週以後の死産率（年間；総数・自然・人工）

$$= \frac{\text{年間のある年齢（年齢階級）の母親による妊娠満22週以後の死産数（総数・自然・人工）}}{\left. \begin{array}{l} \text{年間のある年齢（年齢階級）の母親による出生数} \\ + \text{年間のある年齢（年齢階級）の母親による妊娠満22週以後の死産数} \end{array} \right\}} \times 1,000$$

(6) 周産期死亡

月間周産期死亡率

$$= \frac{\text{月間周産期死亡数}}{\text{月間出産数} + \text{月間妊娠満22週以後の死産数（又は月間出生数）}} \times 1,000$$

(7) 妊産婦死亡

$$\text{妊産婦死亡率} = \frac{\text{直接産科的死亡} + \text{間接産科的死亡}}{\text{年間出産数（又は出生数）}} \times 100,000$$

(8) い患率

$$\text{い患率} = \frac{\text{患者数}}{10月1日現在人口} \times 100,000$$

(9)

$$\text{1日平均在院患者数} = \frac{\text{年間在院患者延数}}{\text{その年の年間日数}}$$

$$\text{1日平均外来患者数} = \frac{\text{年間外来患者延数}}{\text{その年の年間日数}}$$

$$\text{病床利用率（年間）} = \frac{\text{月末在院患者延数の1月～12月の合計}}{\text{（月間日数} \times \text{月末病床数）の1月～12月の合計}} \times 100$$

$$\text{平均在院日数（年間）} = \frac{\text{年間在院患者延数}}{1/2 \text{（年間新入院患者数} + \text{年間退院患者数）}}$$

ただし、  
病院の療養型病床群における平均在院日数

$$= \frac{\text{年間在院患者延べ数}}{1/2 \text{（年間新入院患者数} + \text{年間同一医療機関内の他の病床から移された患者数} + \text{年間退院患者数} + \text{年間同一医療機関内の他の病床へ移された患者数）}}$$

$$\text{病床回転率（年間）} = \frac{\text{その年の日数}}{\text{年間平均在院日数}}$$

6 . 比率算出に用いた基礎人口は、次のとおり平成13年10月1日現在推計人口を用いた。

全国 総人口 127,291,000 (男 62,244,000 女 65,047,000)  
 日本人人口 125,908,000 (男 61,595,000 女 64,313,000)  
 山口県総人口 1,522,500 (男 719,843 女 802,657)  
 日本人人口 1,509,549 (男 714,095 女 795,454)

|             | 全 国 | 山 口 県 |
|-------------|-----|-------|
| 人 口 動 態 統 計 |     |       |
| 食 中 毒       |     |       |
| 医 療         |     |       |
| 母 体 保 護     |     |       |

国勢調査実施年の比率については、国勢調査確定人口により再計算した。

7 . 医師、歯科医師、薬剤師、保健婦、助産婦、看護婦（士）、准看護婦（士）、歯科衛生士・技工士、あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう・柔道整復師数については「行政事務の簡素合理化及び整理に関する法律」の施行に伴い、昭和57年から隔年毎の調査である。